

## 新たな中国経済の牽引役を担う西部地域

——成渝（成都・重慶）地区ダブル・シティー経済圏——

毛 衛 兵

1. はじめに
2. 背景——なぜ成都と重慶か
  - (1) 経済規模の急速拡大
  - (2) 沿海と内陸地域間の格差是正の狙い
  - (3) 域内経済格差
  - (4) 「一帯一路」と「ダブル循環（双循環）」取り組みの一環
3. 目標と内容
  - (1) 目 標
  - (2) 内 容
4. 成渝地域の発展状況
  - (1) 四 川 省
  - (2) 重 慶 市
5. おわりに

### 1. はじめに

近年の中国経済は、沿海部が伸び悩む一方、内陸部が高い成長ペースを維持しているため、内陸部の牽引力が高まっている。中央政府は、内陸の更なる発展を支援すべく、上海を中心とする長江デルタ都市群（上海、江蘇、浙江など）、香港とマカオと隣接粵港澳大湾区都市群（香港、マカオ、広東省、深セン市、珠海市など）、そして京津冀城市群（北京、天津、河北など）に次ぐ成渝地区経済圏を設置する方策を打ち出している。

2021年10月20日、中国共産党中央委員会国務院は「成渝地区ダブル・シティー経済圏建設計画の概要」を公表した。これは2016年に「成渝都市群開発計画」が発表されて以来、国家レベルで再び成渝地域に対し、地域の特性を踏まえた地域の調和のとれた、合理的な地域発展構造の形成に関する明確な指示である。中央政府は「成渝地区ダブル・シティー経済圏」という名称を掲げ、新たな「質の高い発展のための重要な成長地域」を形成することが重要であると提起した。計画概要では、重慶と成都の中心都市としての牽引的な役割を強化し、1.成渝地区を全国的に影響力を持つ重要な経済中心地に、2.科学技術発展、イノベーションセンター、3.先進産業集積地

の形成，4.改革と開放のニューフロンティア，5.質の高い生活と暮らしやすい地域を目指すべきである。更に将来的に全国の質の高い発展を促進する役割を果たすべきであると提案した。計画の実施は2025年から2035年頃と見込まれる。

成渝地区ダブル・シティー経済圏は重慶の中心区及び万州，涪陵，綦江，大足，黔江，長寿など27の区（県）と，四川省の成都，自貢，泸州，徳陽，綿陽，隆昌など15都市から構成される。長江上流に位置する成渝地区ダブル・シティー経済圏は，産業と主要都市が高度に集中し，中国西部で最も人口密度の高い地域である。統計によれば，2021年に成渝地区ダブル・シティー経済圏の総面積18.5万平方キロ，常住人口9600万人，地域総生産値7兆3919億元，それぞれ全国に占める割合は1.9%，6.9%，6.4%であった。

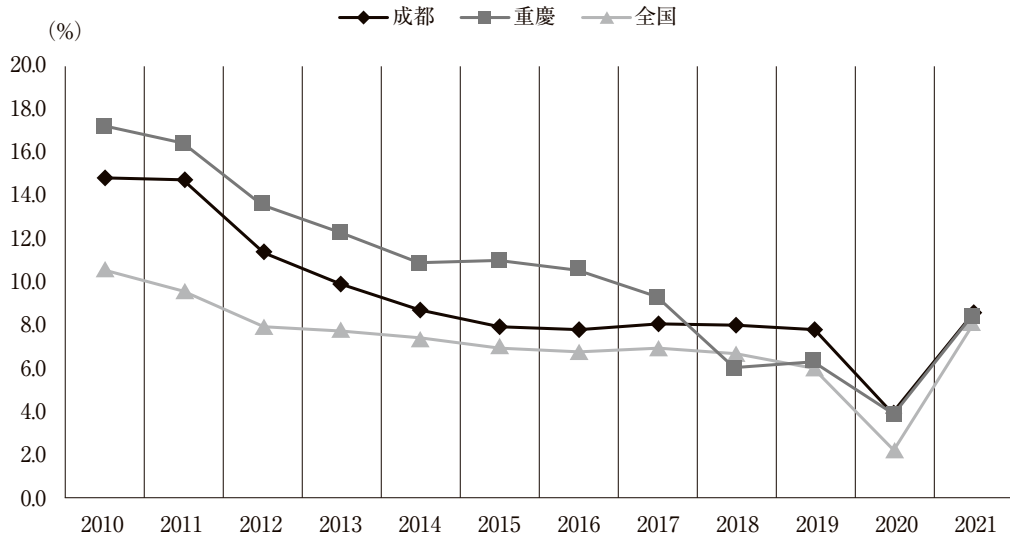
中国の経済発展が沿海部に偏ってきたなか，内陸部の発展が遅れた。また，経済成長の過程で生じた数々の問題の根本的原因は，経済構造が不合理で成長方式が粗放型であるとし，産業構造の最適化，高度化が課題となっている。これらの問題を解消するため，新たな成長地域と成長分野の創出が必要となる。成渝地区ダブル・シティー経済圏において，今後競争力強化・産業の高付加価値化に向け，ビッグデータやインターネット，環境，デジタル経済を含む新経済などの分野で新たな成長の原動力を作り出すとともに，世界レベルの先進的な製造業と産業集積地を育成することが期待される。

## 2. 背景——なぜ成都と重慶か

### （1）経済規模の急速拡大

近年，内陸振興政策の実施と「一帯一路」の建設という波に乗って，成都，重慶市は，中国のなかでも成長が最も目覚ましい地域の1つとして浮上してきた。従来の国内向けの自動車・オートバイ，設備製造，素材産業，天然ガス・石油化学工業に加え，輸出向けのノートパソコン，集積回路 IC など電子情報産業が新たな成長エンジンになってきた。2021年重慶と成都それぞれ GDP 総額は全国ランキングで，上海，北京，広州，深センに次ぐ5位と7位であった。図表1で示しているように，2010～2021年の12年の間に，西部地域の代表の都市である成都と重慶の GDP 成長率は全国の平均値を上回っていた。2021年，重慶の GDP は2兆7894億元で，1997年の中央政府直轄の自治体設立以来，年間平均成長率は11%に達した。一方，成都の GDP は1兆9916億元であった。成渝地区ダブル・シティー経済圏の全体を見ると，前年同期比8.5%増の7兆3919億元に達し，成長率は西部全地域の平均値を1.1ポイントを上回り，西部地域をリードし続けた。成渝地区ダブル・シティー経済圏の土地面積は全国の1.9%しか有していないにもかかわらず，全国 GDP に占める割合は2014年の5.49%から2021年には6.5%になった。7年間で約1%も上昇した。西部地域だけ見ても成渝地区ダブル・シティー地区経済圏は3%未満の土地面積で全体 GDP の

図表1 GDP成長率の比較



資料：中国統計年鑑を基に作成

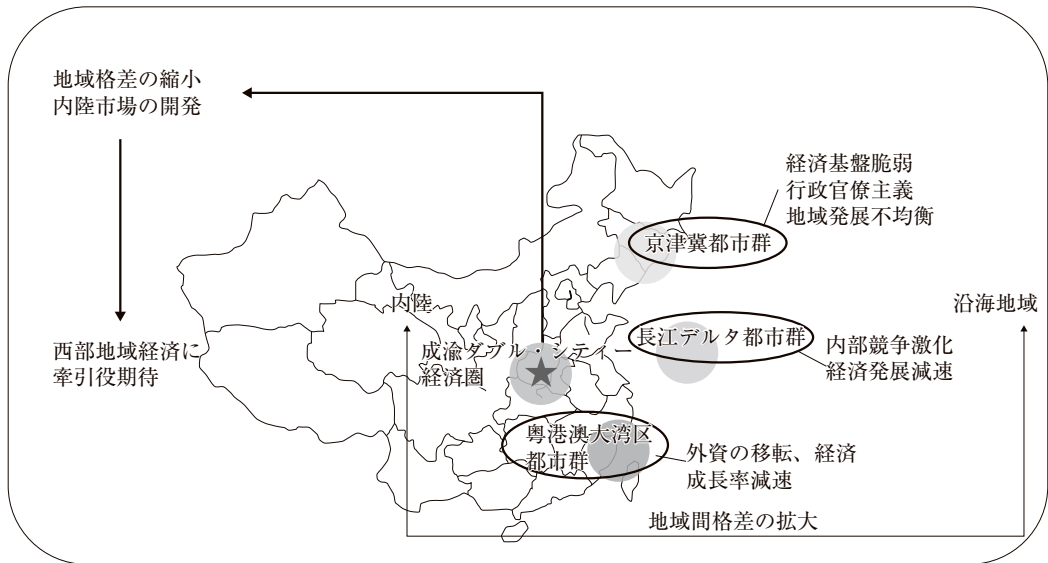
30.8% を実現している。更に、一次、二次、三次産業総生産額はそれぞれ西部全地域の23.7%、31.2%、33.9% を占めている。また、実質社会商品小売り高は西部地域の38.8% を占め、成渝地区ダブル・シティー経済圏は西部地域において「経済発展の先駆け」の地域である。

## （2）沿海と内陸地域間の格差是正の狙い

上述したように中国の経済発展が沿海部に偏ってきたなか、中西部内陸地域の発展が遅れた。沿海地域は、改革開放後、地域に経済特区の設置や外資系優遇政策による市場経済化が進展、産業集積が形成され、「世界の工場」としての中国経済の発展をリードしてきた。上海を中心とする長江デルタ都市群、香港とマカオと隣接粤港澳大湾区都市群、そして京津冀城市群という3つの地域経済圏が牽引的な役割を果たしてきた（図表2）。その結果、地域によって異なった制度・政策の起因による地域間の格差が生じている。しかし、近年社会の安定維持の観点から一層の格差が許容できなくなったことから、地域間の均衡発展を目指す政策を強化している。内陸部への投資は2000年代前半に西部地域の比重が大きく上昇しており、インフラ建設などの巨大プロジェクトの始動で、投資資金が西部地域に傾斜した。内陸部への発展効果をもたらしたものの、依然沿海地域と比較すると、大きな格差がまだ解消されない状況である。

2021年の4つの都市群の経済圏の経済発展状況を比較すると、成渝地区ダブル・シティー経済圏のGDPは、京津冀都市群、長江デルタ都市群、粤港澳都市群それぞれの77%、27%、59%であり、一人当たりGDPは86.5%、64.3%、58.6%であった。成渝地区ダブル・シティー経済圏は他の三大都市群との経済規模には、まだ大きなギャップがあることがわかる。また、第三次産業も他

図表2 四大経済群の構図



資料：筆者作成

図表3 2021年四大都市群比較

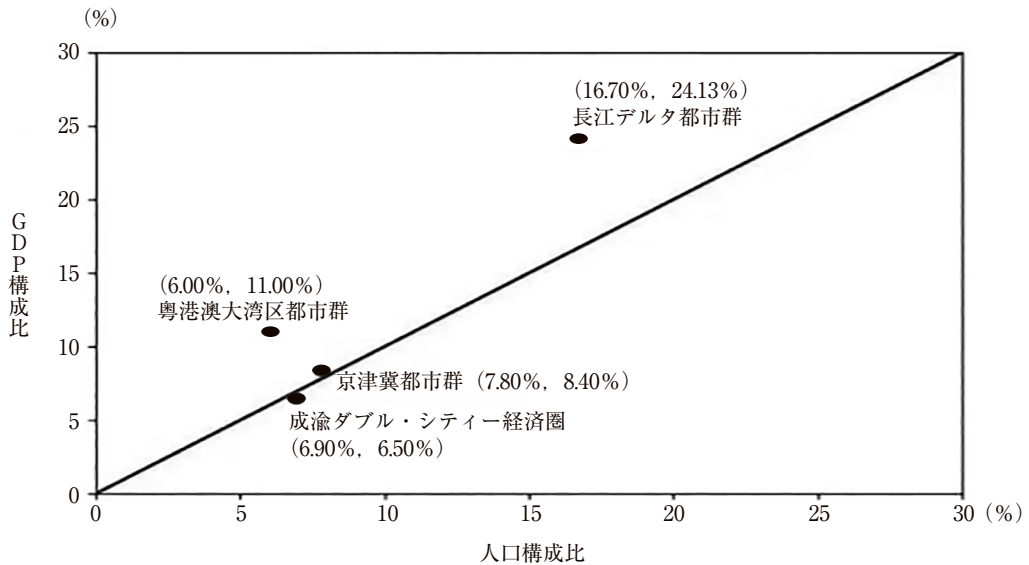
都市群	GDP (億元)	一人当たり GDP (元)	第三次産業比率
京津冀都市群	96,356	87,300	64.90%
長江デルタ都市群	276,054	117,400	57.60%
粤港澳都市群	126,300	128,900	57.60%
成渝地区ダブル・シティー経済圏	73,919	75,500	53.40%

資料：四川統計年鑑，重慶統計年鑑を基に作成

の三大都市経済群より下回り、53.40%に留まっている（図表3）。今後、成渝地区ダブル・シティー経済圏は沿海地域の三大経済群と並んで中国経済の第4の成長エンジンとして発展し、沿海と内陸間の地域格差の是正が期待される。

更に、地域経済都市群の経済の比重は図表4で示しているように、人口構成比と経済の規模（GDP）は長江デルタ都市群が突出して上位に占めている。人口構成比では、成渝地区ダブル・シティー経済圏、京津冀都市群、粤港澳都市群がほぼ同じであるが、経済規模は他の3つの経済群を下回るという関係にある。このことから沿海と内陸の地域格差には依然大きな開きがあるとわかる。成渝地区ダブル・シティー経済圏の提起により、当地域が今後発展することによって、内陸と沿海地域の格差の解消が期待される。

図表4 2021年地域経済の割合



(注) 地域分類は以下の通り。

長江デルタ都市群（上海、江蘇省の南京、無錫、常州、蘇州、南通、塩城、揚州、鎮江、泰州、浙江省の杭州、寧波、紹興、金華、舟山、台州、安徽省の合肥、芜湖、馬鞍山、同陵、安慶、宣城など26都市）

京津冀都市群（北京、天津、河北省の保定、唐山、石家荘、廊坊、秦皇島、張家口、承德、滄州、衡水、邢台、邯鄲、定州、辛集及び河南省安陽。）

粵港澳大湾区都市群（香港、マカオ、広東省の広州、深セン、珠海、仏山、惠州、東莞、中山、江門市、肇慶）

成渝ダブル・シティー経済圏：（重慶市の渝中、万州、黔江、涪陵、大渡口、江北、沙坪坝、長寿、江津、合川、璧山、梁平、丰都、垫江、忠县等27個区（県）个区（县）、四川省の成都、自貢、泸州、德陽、綿陽、遂寧、内江、樂山、南充、眉山、宜賓、広達、達州、雅安、資陽など15都市）

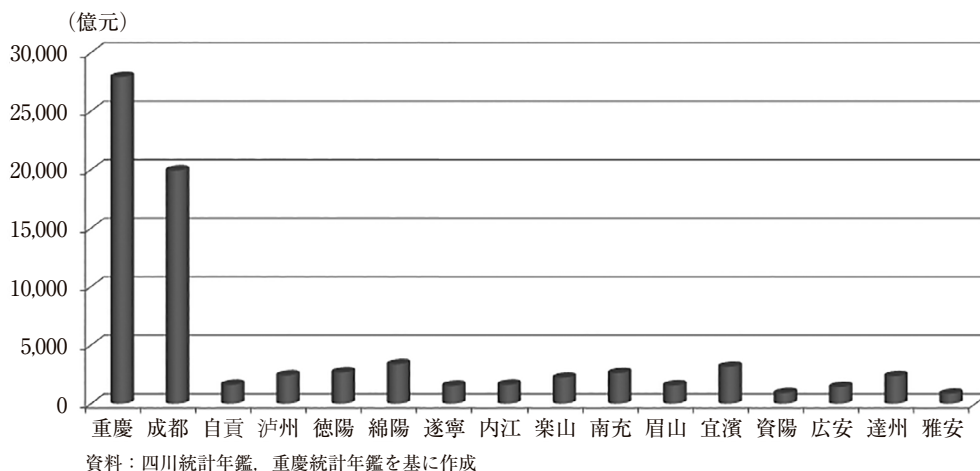
資料：国家統計局

資料：中国統計局

### （3）域内経済格差

成渝地区ダブル・シティー経済圏には成都と重慶の2つのメガシティーを有するが、域内に両大都市の中間に繋ぐ経済が活発な都市が欠如している。そのため、長期的に成渝地域に“中部陥落”の問題が直面している。成都、重慶両大都市以外にGDPは3000億元を超える都市は綿陽と宜賓のみであり、ほとんどの都市は1000~2000億元の間である（図表5）。2019年、成都と重慶の中間地域の常住人口は1492万人、総GDPは5541億元、成渝地区ダブル・シティー経済圏に占める割合はそれぞれ15%、8.9%であり、平均一人当たりGDPはわずか3.71万元であり、成都と重慶両都市の半分以下である（図表6）。都市化率と第三次産業の割合は重慶と成都との間にも大きな差がある。長江デルタ都市群には南京、杭州、寧波、合肥など、京津冀都市群には北京、天津、雄安など、粵港澳都市群には香港、マカオ、広州、深センなどGDP1兆元超えの都市を有しているが、成渝経済圏には成都と重慶しかない。その意味では、成渝地区ダブル・シティーにおいて成

図表5 成渝地区ダブル・シティー経済圏主要都市 GDP



図表6 成渝地区ダブル・シティー経済圏主要都市経済指標

都市	一人当たり GDP (元)		都市比率 (%)		第二次 産業割合 (%)	第三次 産業割合 (%)	第二次 産業割合 (%)	第三次 産業割合 (%)
	2015	2021	2015	2021	2015	2021	2015	2021
重慶	52,837	86,900	60.90	70.30	44.90	48.40	38.20	53.40
成都	75,089	94,600	71.47	79.48	43.73	52.81	30.70	66.40
自貢	35,180	64,909	47.88	56.20	58.12	30.68	39.20	45.60
瀘州	31,714	56,560	46.08	50.24	59.61	27.99	49.30	39.70
徳陽	45,701	76,900	48.50	57.07	56.28	30.75	48.30	41.10
綿陽	36,651	68,800	48.00	53.63	50.52	34.19	40.30	48.30
遂寧	26,515	54,000	45.91	57.00	56.16	28.37	46.30	39.20
内江	27,247	48,400	45.60	50.58	59.89	24.17	32.80	49.90
樂山	39,973	69,800	47.31	54.07	58.95	30.10	42.20	44.60
南充	23,881	46,400	43.82	51.20	48.88	29.00	39.20	42.60
眉山	32,004	52,400	41.87	51.11	56.14	28.36	38.54	46.61
宜賓	32,815	68,600	45.00	52.94	58.32	27.50	49.80	38.90
資陽	22,824	38,600	39.50	42.12	55.33	24.92	52.40	34.80
広安	31,046	43,600	37.00	53.69	51.73	32.03	33.30	49.50
達州	24,342	43,700	40.87	49.53	48.68	29.79	35.50	47.00
雅安	53,587	58,600	42.55	53.55	55.90	29.69	30.90	50.30

資料：四川統計年鑑，重慶統計年鑑を基に作成

都と重慶両大都市が域内の他の中小都市に発展の牽引力を発揮することが重要である。

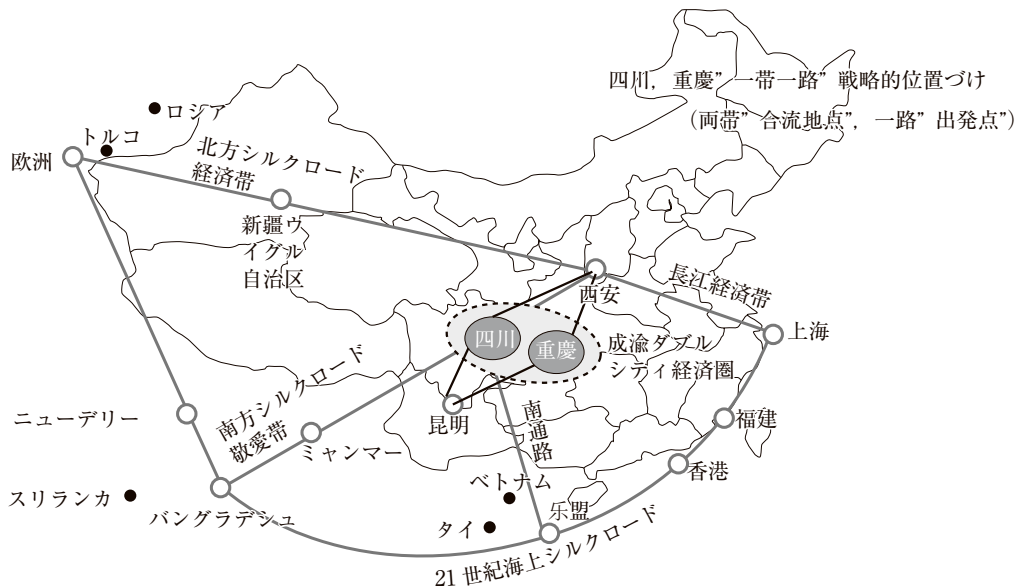
#### (4) 「一帯一路」と「ダブル循環（双循環）」取り組みの一環

従来、交通、物流など社会インフラの整備の不十分さと、閉鎖的、開放レベルが低いことが西部地域の発展を阻む重要な要因と考えてきたが、近年、成渝地区は「一帯一路」と長江経済ベルト地域の共同建設に積極的に関与し、総合力を高めてきた。従来「一帯一路」とは、①中国西部

から中央アジアを經由してヨーロッパに繋がる「シルクロード経済帯」（一帯）と、②中国沿岸部から東南アジア、インド、アラビア半島の沿岸部、アフリカ東岸を結ぶ「21世紀の海のシルクロード」（一路）である。しかし、西部地域のインフラ整備が急速に整えられたため、成都と重慶が一帯一路にかかわる貿易、資金の往来が頻繁に行われるようになった。

重慶と成都はシルクロード経済帯の重要な戦略的支点到に位置し、長江経済帯の西部の中心ハブ、海のシルクロードの産業背後地でもある。「一帯一路」と長江経済ベルトの交差点に位置する成都と重慶は、西の陸海新通路の出発点でもあり、西南、西北を結び、東アジアと東南アジア、南アジアに繋がる独特の利点を有する。南へはミャンマーに接する雲南省の昆明まで約900キロメートル、ここからミャンマーを経て21世紀の海のシルクロードへと繋がるというメリットもある（図表7）。また、陸海新通路の「チャネル+ハブ+ネットワーク」という現代物流システムが整備されることによって、鉄道・海上一貫輸送、国際鉄道輸送、越境道路輸送の3つの輸送方式をメインに、ASEANとの経済貿易交流はますます緊密になり、輸出入額は年々増加している。更に、シンガポールと中国が2国間政府プロジェクトとして開拓した重慶市とシンガポールを結ぶ新たな海陸複合輸送ルート「南向通道（CCI-STC）」の運用が本格化している。新ルート開拓で、輸送期間が大幅に短縮され、重慶市とシンガポール、東南アジア間の貨物量が年々増えつつある。鉄道においては、重慶にとって重要な輸出物流手段となりつつある重慶とドイツ西部の工業都市デュイスブルクを結ぶ貨物鉄道「渝新欧鉄道」がある。2011年に全線開通し、当鉄道は全

図表7 成渝地区の戦略的地理位置



資料：筆者作成

長約1万1000キロメートルの距離である。中央アジア、ロシア、ベラルーシ、ポーランドなど重要都市を経由するため、まさに「一帯一路」が体现された物流経路である（図表7）。

また、中国はこれまで「国際大循環」と称される活発な国際間取引による発展モデルで成長してきた。近年、米国をはじめとする反グローバル化の動きがみられるようになった。そのため、中国にとって、内需の拡大が長期的に経済発展にとってより不可欠になった。特に新型コロナウイルスが発生して以降、2020年4月10日に習国家主席の中央財政委員会第7回会議上における《国家の中長期の経済社会発展戦略に関する重大問題》の談話によると、今後は国内大循環を主体として、国内外の「双循環」が互いに促進する新発展モデルを目指す。このような背景の下に、成渝地区ダブル・シティー経済圏建設は、国内の大きな循環を主体としつつ、国内と国外の2つの循環が相互に作用し合う新たな発展局面を構築するための重大な措置だと考えられる。

### 3. 目標と内容

#### （1）目 標

中央政府は、成渝ダブル・シティー経済圏において資源を効率的に利用し、各地域の比較優位に基づく相互補完型の連携を図る上では、市場のメカニズムを高め、交通、情報市場の一体化を目指し、地域経済を推進していくとの目標を掲げている。2025年までに、成渝ダブル・シティー経済圏の経済力、発展の活力、国際的影響力と地域一体化を著しく向上させ、地域の特色を持つ全国的な質の高い発展を支える地域が強化される。主に具体的には以下の4点である。（1）重慶と成都間を1時間で高速鉄道で繋ぎ、鉄道ネットワークの総規模は9000キロメートル以上に達し、20万人以上の人口都市をすべてカバーできる。（2）域内イノベーション促進環境は基本的に構築され、研究開発（R & D）投入比率は約2.5%に、科学技術進歩の貢献率は63%に達する。（3）優位性を持つ産業の分業を合理化し、シナジー効果を促進、地域において産業チェーン、サプライチェーンの構築が基本的に完了する。世界レベルの先進製造業の集積地が形成される。（4）デジタル経済、西部金融センターの機能、現代のサービス産業形成を強める。

2035年までには、重慶と成都が近代的な国際都市の仲間入りを目指し、域内中小都市が共同で発展する都市システムが完成し、地域内にアクセスしやすいインフラが基本的に実現され、国家影響力を持つ科学技術イノベーションセンターが完成し、世界トップクラスの先進製造業クラスターの優位性が総合的に形成され、現代の産業システムが成熟する。そして、グローバルな開放経済システムが基本的に構築され、人々の生活の質が大幅に向上し、全国的な質の高い発展を支える能力が著しく強化され、国際的な影響力を持つダイナミックな成長極として強力な原動力となる。



(2) 内 容

図表8 成渝地区ダブル・シティー経済圏計画要綱の主要内容

<p>1. 戦略的位置づけ</p>	<p>(1) 成都、重慶両都市が成渝地区及び西部地域と連動し、地域経済発展を牽引することによって域内産業、人口、生産要素の流動性と効率性を高める。</p> <p>(2) 成渝地区ダブル・シティー経済圏の全国影響力を持つ、科学技術の発展、イノベーションの中心地域、高レベル改革開放、質の高い暮らしやすい地域にする。</p> <p>(3) グローバルの資源配分への関与度と、経済の効率性向上能力を高め、先進的製造業の基地、シナジー効果のある産業集積地、現代サービス業発達市域、地域特色のある多元的消費業態のある地域、西部金融センター、国際商品消費地域を目指す。</p> <p>(4) 包括的な改革開放を押し進め、“一帯一路”、長江ベルト経済帯、陸海新通路との連動的発展の戦略的中心地域にし、地域の対外開放のモデルにする。</p> <p>(5) 長江上流地域の生態自然環境を保護し、エコロジーの環境システムのモデル地域にする。世界的観光、行楽地にする。</p>
<p>2. 域内社会インフラ整備</p>	<p>(1) 地域において成都、重慶両都市が周辺中小都市を牽引する役割を發揮する。両都市の優位性で相互に補い合い、高い品質の発展を実現する。域内の市場空間を開拓拡大し、産業チェーン・サプライチェーンを最適化する。</p> <p>(2) 地域の一体化の発展理念を打ち立て、協力メカニズムを整備する。社会インフラの建設を両都市が手を組んで共同建設する。成都の天府国際空港、双流国際空港と、重慶江北国際空港の建設によって当地域の国際ハブ空港的な機能を向上する。</p> <p>(3) 域内に科学的鉄道、都市間的高速鉄道、モノレールなどを企画し、地域一体化する総合的便利な交通運用システムを構築する。</p>
<p>3. 現代的産業集積システムの構築</p>	<p>(1) 総合的質の高い製造業の発展を推進する。産業間に優位性で相互に補い合い、産業チェーン、サプライチェーンを構築する。周辺中小都市において成都、重慶両都市が牽引役を果たし、電子情報通信、車産業の産業チェーンを構築する。</p> <p>(2) 国際競争力のある先進製造業のクラスター群、装備製造業のクラスター群を構築する。成都経済圏の産業発展に伴い必要な地域の港湾、物流、金融などを整備する。</p> <p>(3) 成都、重慶の創造的発展力を向上させ、ハイクオリティな製造業の両都市のダブルエンジンで、都市部の研究開発を中心に、周辺地域に製造業の分業型の都市圏の産業体制を構築する。</p>
<p>4. 成渝科学研究プラットフォームを共同で構築</p>	<p>(1) 四川省科学技術局と重慶市科学技術局が共同で主催し、「成渝ハイテクゾーン同盟」を創設する。ベンチャービジネスを育成するインキュベータ（ふ化）施設を提供する。</p> <p>(2) 成都科学城、未来科学城、重慶科学城、綿陽科学城、国家級新区を基に西部科学城を統合する。</p> <p>(3) 科学技術イノベーション回廊を共同で構築し、世界の重要な、国家レベルのイノベーション経済ベルト地帯を作り上げる。</p> <p>(4) 新しいタイプの研究開発（R&amp;D）機関の建設を支援する。大学、研究機関、大企業、その他の共同主体で産業技術研究所、工業技術研究所の設立を支援する。</p>

5. 新経済企業の育成	<p>(1) 国内および世界の影響力を持つ新経済に適合する企業の育成、企業のイノベーション、研究開発や特許申請などの企業活動を支援する。</p> <p>(2) 域内に業界、地区をまたがる産業試験区を設立、社会に必要とする新しい業態を探求する。“人工知能 (AI+)” “IoT+” “生物+” “ブロックチェーン+” など新業界を奨励、育成する。</p> <p>(3) 次世代 IPv6 に基づくインターネットの構築、クラウドソーシング計算、ビッグデータ、自動運転を中心に社会インフラを整備する。</p> <p>(4) デジタル経済を推進する。域内に半導体 IC チップ、モニター、知能端末、ICT などの分野の企業集積群を育成する。</p>
6. 開発区と自由貿易試験区の設立	<p>(1) 重慶、四川自由貿易実験区を支持し、海外貿易により便利な外貨管理策を試行する。より一層便利な貿易監督制度を模索し、ダブル・シティー経済圏にその改革を推し広める。金融、科学技術、医療、貿易とデジタル経済領域により開放的にする。</p> <p>(2) 重慶の两江新区、四川天府新区が牽引力を発揮し、重慶の経済技術開発区、海峽兩岸産業合作区、成都国際鉄道港開発区及び他の国家レベル、省レベル開発区の建設を加速する。成都天府臨空経済区建設を推進する。</p>

資料：中共中央 国务院印发《成渝地区双城经济圈建设规划纲要》（日本語成渝地区ダブル・シティー経済圏建設計画要綱）より作成

#### 4. 成渝地域の発展状況

近年、成都と重慶両政府は、当地域産業サポート政策を大いに打ち出している。自動車、電子情報、機器製造、装備製造などの産業において、相互補完的な共同発展プログラムを実施し、産業イノベーション、産業チェーン、資本、バリューチェーンの現代産業体系の構築に力を入れている。その結果、地域に自動車、電子情報など産業クラスター集積地ができつつある。2021年両都市の電子情報産業の営業収入は2兆元を突破、自動車産業の生産高も7000億元に達し、装備製造業においても高い成長率で発展している。新しいディスプレイ、5G実証アプリケーション、情報セキュリティなどの分野が全国トップにランクされている。また、第13次5カ年（2016-2020年）計画期間中、成都と重慶の両政府は、新世代の情報技術、バイオ医薬品、新素材などの戦略的新興産業に重点を置き、力を注いできた。伝統産業から先進製造業、スマート産業などを新たな軸に据え、製造業のモデルチェンジ・強化を図っていく方針を打ち出し、成都と重慶の両都市間の産業シナジー効果、イノベーション能力を着実に上げようとする。

成都是、科学技術人材、大学資源、情報技術産業において優位性を持つ一方、重慶では先端製造業、知能製造センター、ビッグデータ分野において比較優位を持つ。両地域の比較優位に基づく相互補完の連携を図って、相互間の協力と競争によるシナジー効果を増大させ、全国における高い品質の発展を牽引する重要な成長地域および新原動力を生み出すとみられる。2021年の「2つの会議」の期間中、成渝ダブル・シティー経済圏とこれら2都市による中国西部の科学都市の構築が再び全国的な注目を集めた。今後、両市は協力を強化し、独自の技術革新のための能力を

向上させ、主要分野におけるブレイクスルーを実現するために協力し、中国の高品質への発展を推進する重要な成長の極の創出が期待される。

### （１）四川省

第13次5カ年計画（2016-2020年）期間中、四川省政府は、新薬と人工知能（AI）に関する成果、科学技術の研究成果を商用化する実証区を設立するため多大な労力を注いだ。同省は1800を超す技術革新のためのプラットフォームを構築した。2018年に「5+5+1」プランで重点産業領域の成長戦略を打ち出した。このプランによって、イノベーションの要素を市場への供給、良い産業環境を育成することで、先進製造業、現代サービス業、新経済に支えられた近代的、開放的な産業システムの構築を加速する。「5+5+1」は、先進製造業において5つの産業分野（電子情報、設備製造、医薬健康、新型材料、グリーン食品）の「5」と、現代サービス業において「5」は5つの分野（国際展示会、金融サービス、現代物流業、文化・観光、生活サービス）と、新経済（デジタル経済）「1」において（人工知能（AI）、ビッグデータ+、5G+、再生エネルギー、現代サプライチェーンなど）である。つまり、先進製造業「5」、現代サービス業「5」を「1」のデジタル経済によって推進していく構想である。

四川省の中核産業は電子産業である。域内は中西部地域におけるICの最大規模の生産地となっており、IC設計、チップ製造、パッケージテストといった産業チェーンが形成されている。インテル（米国）やフォックスコン（台湾）などが工場を稼働しており、近年では中国有機EL最大手のBOEが成都市、綿陽市に工場を建設するなど、大規模な投資も行われている。また、四川省は自動車産業にも力を入れており、生産台数は2010年の10万台から2017年は80万台まで増加。新エネルギー車の生産も行われるようになってきている。電気自動車（EV）ベンチャー大手の威馬汽車も研究拠点を成都へ置くなど、今後EVやコネクテッドカーの研究拠点として注目されはじめている。これらの産業の発展を更に加速させるため、現在、四川省はイノベーション、デジタル経済の推進を図っており、2022年までにデジタル経済の規模2兆元を目標としている。成都市は、2017年9月に「成都新経済発展研究院（iNED）」を設立し、市内に進出するベンチャー企業向けのコンサルティングなどの支援を行う。四川省のイノベーションへの取り組みは、国内外企業からも徐々に注目を集めはじめている。

### （２）重慶市

重慶は1997年直轄市になってから、政府主導の社会インフラ開発投資で高い成長率を維持していると言われている。しかし、近年、先端型製造業と先進的サービス業の産業育成を急ピッチで進めている。特に、工業化や産業高度化の進展が加速している。

第13次5カ年計画（2016-2020年）期間中重慶市の総合的实力が大幅に向上した。GDP年平均

の成長率は7.2%で、2020年のGDPは2兆5000億元に達した。固定資産投資額、社会商品小売り高、輸出入額の成長率はそれぞれ7.6%、9%、7%であった。規模以上の工業生産高の成長率が6.4%で、ハイテク産業と戦略的新産業は重慶の産業成長にそれぞれ3.7%、55.7%貢献した。また、高等教育機関が主導するイノベーション型企業の集積効果が徐々に現れ、88の国内外の有名なイノベーション機構が重慶に拠点を開設し、研究者の数は64.4%も増加した。開発研究費の年成長率は17.4%、1万人当たりの特許保有件数は11.3件で、技術進歩による貢献率は58.6%になった。また、工業情報化省傘下のシンクタンク中国信息通信研究院（中国信通院）《中国デジタル経済発展報告（2022年）》によれば、2021年中国のデジタル経済の規模は45.4兆元に達し、GDPに占める割合は2008年の15.2%から2021年の39.8%になった。2021年、重慶におけるデジタル経済経済規模は、広東、江蘇、山東など16都市と並んで1兆元を超えた。

一方、対外取引の面では、重慶は「一帯一路」の建設に積極的に関与し、物流の面において国際貿易の通路が開かれた。西部陸海新通路は96の地域の260の港と繋がり、中欧列車（重慶）の運行累積本数は7000本に達し、輸送量は40万TEUを超えた。航空便の国際運行路線数は101であり、全国初の港型と陸空型の物流総合ハブ都市が実現した。また、輸出輸入の80%、外資直接都市の60%はシンガポールと協定を結ぶプラットフォームと市内の自由貿易に国際貿易のプラットフォームで実現した。5年間に外資利用額は523.8億元であった。世界500強企業の内296社が重慶に拠点を設置した。

## 5. おわりに

中国の経済発展は政府の強い政策誘導の下で、実現してきた成長パターンが多くみられている。改革開放当初、外資の優遇政策や経済特区を設立するなどの政府主導の地域政策によって、沿海地域は急激な高成長を遂げてきた。しかし、その反面、地理的、政策的に恵まれていない内陸地域が立ち遅れ、格差問題が生まれている。

地域格差の解消のため2000年頃から始まった西部大開発の取り組みは、特に第13次5カ年計画（2016-2020年）期間中に西部地域に大都市である成都と重慶は恩恵を受け、とりわけ伝統の産業から先進的な産業への転換、地域経済成長の面において一定の成果を上げている。それを深化するため、新たに両都市を牽引役とする「成渝地区ダブル・シティー経済圏」を設置し、将来成渝地域が全国における質の高い発展を牽引する重要な成長源を創出する計画である。その内容は、政府の傾斜的な財政の配分と地域産業政策により、交通インフラ整備と産業インフラを増強、沿海地域との連携や、地域内での連携を強めるという経済システムの構築とするものである。

しかし、市場経済の下では、資本、労働などの生産要素価格の変化が生産要素の移動を促すことで格差を縮小することが重要である。また、企業群、研究所、ベンチャービジネスを育成する

インキュベータ（ふ化）施設、業界組織など、多様な役割主体を特定地域に配置し、相互間の協力と競争によるシナジー効果を増大させることによる経済成長の実現は市場経済のメカニズムの基礎である。

中国では、生産要素が政府により所有されている割合がなお高く、経済活動は政府主導の下で推進することで高い成長を遂げてきた。中長期的に中国経済がより健全に発展するため、そのような政府主導の経済成長に留まらずに、市場メカニズム強化への改革が更に前進することが重要である。

### 参考文献

#### 日本語

- 朱炎（2015）「中国の対外投資と一帯一路戦略」『東亜』No.579（2015年9月号）20-28ページ。  
张秋菊（2014）「都市の中心地機能とその空間的展開—中国の四川・重慶地域を事例として—」『鹿児島大学』地域政策科学研究』第12号，159-179ページ。  
丸川知雄編（2000）『移行期中国の産業政策』アジア経済研究所。  
中兼和津次編（2011）『改革開放以後の経済制度・政策の変遷とその評価』NIHU 現代中国早稲田大学拠点 WICCS 研究シリーズ。  
孟建軍（2022）「中国における“ビジネス環境の最適化”と“中央地方関係”の再構築に関する考察」『デスクッションペーパー』RIETI 独立行政法人経済産業研究所，22-J-012。

#### 中国語

- 林毅夫、付才輝「成渝地区双城经济圈建设的新结构经济学分析建议报告」成都日报，2020年06月17日。  
孙浩进、李虹辉、宁健康「西部大开发新格局下成渝经济圈产业协同发展研究」『经济学管理学研究』2022年2月第2期97-10页。  
史育龙、张惠强「成渝地区双城经济圈建设新思路」『开放导报』2022年6月第三期。  
龙开元、孙翊、戴特奇「科技创新支撑成渝双城经济圈建设路径研究」『华中师范大学学报-自然科学版』2021年55号791-797页。  
张拯海、孙艳玲「成渝双城经济圈中部凹陷区经济发展水平评价」『中国经贸导刊』成都信息工程大学2021年8期43-48页。  
利焰、杭行、曹龙、吴芯雨「成渝双城经济圈新区城市群产业现状分析」『营销界』成都大学2021年15期30-32页。  
刘小差、冯瑜「统筹成渝双城经济圈产业要素合理流动和高效集聚」『中国发展观察』西南财经大学工商管理学院2020年12期51-55页。  
張維迎『市場与政府』西北大学出版社，西安，2014年。  
国家统计局編『中国統計年鑑』各年版。  
四川省统计局編『四川統計年鑑』各年版。  
重庆统计局編『重庆統計年鑑』各年版。

#### インターネット

- 中共中央国务院印发《成渝地区双城经济圈建设规划纲要》（中华人民共和国中央人民政府）2021年10月21日  
[http://www.gov.cn/zhengce/2021-10/21/content\\_5643875.htm](http://www.gov.cn/zhengce/2021-10/21/content_5643875.htm)  
「重庆：数字赋能 产业升级」（重慶電子情報網2022年8月12号）<http://www.cena.com.cn/ssxw/>

20220812/117194.html

「重庆市人民政府办公厅关于提升制造业产业链供应链现代化水平的实施意见」（重慶市人民政府人民府2021年12月10号）[http://www.cqtn.gov.cn/bm/qjjxxw/zwgk\\_25192/zfxgkml\\_bm/zcwj\\_bm/gfxwj\\_bm/202112/t20211210\\_10134221.html](http://www.cqtn.gov.cn/bm/qjjxxw/zwgk_25192/zfxgkml_bm/zcwj_bm/gfxwj_bm/202112/t20211210_10134221.html)

（四川外国語大学国際金融貿易学院准教授 博士（経済学））